

Atsuko Kudo Mail Magazine 196

2013.07.13 ●Blood

お元気でいらっしゃいますか？

ハンプルクは、快適な夏日が続いています。

6月は『民数記』を通読し、今月は『レビ記』を読んでいます。礼拝の規定、ささげ物の規定、祭事の規定など、今までおぼろ

げだったことが明確になると同時に、すべて、神の民を「聖」とするために設けられた規定であるということが理解できるようになりました。「聖」とは「分離」の意味、つまりこの世から分離することです。新約時代の私たちは尊いキリストの血の注ぎを受けて、この世から分離し、キリストのいのちへと移されました。そこからはみ出ると、再び闇の主権者が支配するこの世に逆戻りしてしまいます。キリストのいのちの中にこそ救いがあります。このことをしかと覚え、キリストに留まり続ける者でありたいと心から思います。

●Blood（血について）

私は1984年、留学先のスペインで、アメリカ人宣教師を通して信仰に導かれました。キリストの弟子の群れを作ることを目指していたアメリカ人宣教師ご一家からは、毎日、聖書の学びを受けました。最初の一年は、宣教師のお父様であったエミリオ師から貴重な学びを受けました。その初日の学びは、「血について」でした。私たちの罪を贖うために流された「血」の意味とその力を学んだ時、「血」のイメージが一変したのを覚えています。

今、改めてその学びを読み返し、その霊性のあまりの深さに驚いています。今やっと理解できるようになった事柄が、何と最初の学びで全て語られていたのです！あの時、私の信仰はあまりにも幼すぎて、今のようには理解することが出来ませんでした。これから、エミリオ師から受けた学びを、再び読み返してみようと思っています。

（ニュルンベルク裁判）

ところで、この「血」について、最近、大変感動的なストーリーを聞きました。1945年11月20日～1946年10月1日にドイツのニュルンベルクで行われた、第二次世界大戦の戦争犯罪を裁く国際軍事裁判、「ニュルンベルク裁判」でのことです。

被告は、H.ゲーリング（空軍総司令官、国家元帥）、R.ヘス（ナチ党総統代理）、K.デーニッツ（海軍総司令官、海軍元帥、ヒトラーからの後継大統領）、W.フリック（内務大臣、ボヘミア・モラヴィア保護領総督）、H.フリッチェ（宣伝省幹部、ラジオ局長）、W.カイテル（国防軍最高司



令部総長、陸軍元帥)、E.レーダー(海軍総司令官→海軍元帥)、J.リッベントロップ(外務大臣)、F.ザウケル(労働力配置総監、チューリングゲン大管区指導者)、B.シーラッハ(ヒトラー・ユーゲント指導者→ウィーン大管区指導者)、A.シュペーア(軍需大臣、反ユダヤ新聞『シュテュルマー』の発行者)ら、21名でした。



その被告らに、プロテスタントとカトリックのチャプレンがメンターとして遣わされました。プロテスタントのチャプレンは、ドイツ語を話せる米国人の**H.グレルク**師でした。グレルク師は、最初、その仕事を断りました。彼の二人の息子が、戦争でドイツ軍によって重傷のけがを負わされていたからです。

しかし、祈っていると、「行きなさい」という神の声が聞こえました。グレルク師の担当は、15名の政治犯でした。彼らに面会に行くとき、彼は、ただひとつのことだけを語ろうと決めていました。「あなたがたは多くのユダヤ人を殺しました。しかし、ひとりのユダヤ人の血があなた方の罪を拭い去りました。イエスはあなたたちの罪を赦すために死なれました。」

まず、**カイテル**が、ベッドにひざまずいて祈り始め、多くの罪を告白しました。その後、グレルク師の礼拝とメンタル・ケアは、一年近く続きました。その間、**ザウケル**も「主よ、罪人の私を憐れんでください」と、真摯な祈りを献げました。**フリツェ**、**シーラッハ**、**シュペーア**、また礼拝に参加していた証人の**カッセリング**も、神に罪の赦しを乞い、聖餐にあずかるようになりました。1946年夏には、**レーダー**と**リッベントロップ**がイエスを救い主として信じました。

1946年10月1日、最終判決が下りました。ゲーリングは、「お父さん、天国でまた会えるように、神様を信じて！」と言う、最後の面会に来た娘を突き放し、「お前は好きなようにせよ、私は私の好きなようにする」と答え、その夜、青酸カリのカプセルを飲んで自殺しました。彼は、「政治的理由から、こうするしかなかったのです」という遺書を、グレルク師に残しています。

翌早朝、リッベントロップ、カイテル、ザウケルが、主の赦しと憐みを告白して、絞首台に上りました。それまで礼拝には参加していなかった**フリック**が、その日、絞首台の前に、キリストの血が彼の罪を洗ってくださったことを告白しました。

ナチスは6百万のユダヤ人の血を流しました。しかし、たったひとりのユダヤ人の血が、ナチスの多くの責任者たちを救ったのです。何という逆説、何という神の憐みでしょうか！

小羊なるイエスの血には、どのような罪人をも赦す力、救う力があります。小羊の血潮の力をほめたたえ、十字架の贖いのみわざに心からの賛美と感謝を献げます。



●賛美セミナー

今日は皆様に一足先に、讃美セミナーの予定をお知らせいたします。

大阪： 2013 年 11 月 4 日（月・祭日）

時間： 10:00～17:00

会場： 北浜スクエア （V I P 関西センター9F）
大阪市中央区北浜 2-3-10

東京： 2013 年 11 月 9 日（土）

時間： 10:00～17:00

会場： ぶどうの樹キリスト教会
東京都新宿区山栄町 17-14



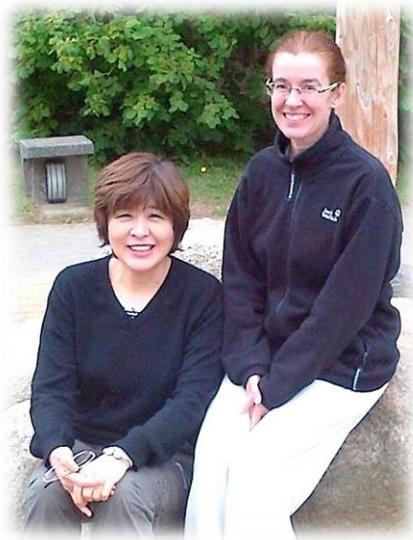
セミナー内容の詳細、参加費、申込み方法に関しましては、改めてご連絡させていただきますので、もう少しお待ちください。参加を考えておられる方は、以上の日程をキープしていただければ感謝です。また、声楽賛美のプライベートレッスンも始めようと思っていますので、その日程も後日お知らせいたします。

●お祈りください

1. ヨーロッパ・キリスト者の集い：7月31日～8月4日、フランスのフォンテーヌブローにて『第30回ヨーロッパ・キリスト者の集い』（パリ教会主催）が開催されます。これから大会での賛美奉仕の準備にとりかかります。今年は、分かち合いグループ「賛美のこころ」のリードと、土曜の「賛美の夕べ」にて、証しと賛美をさせていただくことになっています。どうぞ、大会の祝福のためにお祈りください。

2. 賛美セミナー：この数か月、主との交わりを通して、礼拝賛美の理解が大きく変えられてきました。私の中では、多くのお分かちさせていただきたい事柄があるのですが、どうか、第一回目のセミナーで語るべきことを主が指し示してくださいませよう、お祈りください。

3. 霊肉の支え：感謝なことに、なかなか完治しない湿疹のほかは体調も守られ、主の語りかけに耳をすます貴重な時を過ごすことができました。これから、秋のコンサート・セミナーの本格的な準備に入ります。主が引き続きこの者の霊性と健康を支えてくださいますようお願いいたします。



~~~~~  
北半球にお住まいの皆様は、どうぞ主にあって素晴らしい夏をお過ごしください。南半球にお住まいの皆様には、温暖の変動が激しい中、健康が守られますようにとお祈りしています。

皆様の上に主の溢れる恵みがありますように！

Atsuko Kudo